

科 目	必・選	担 当 教 員	学年・学科	単位数	授 業 形 態							
第2外国語A（ドイツ語） 2 nd Foreign Language A（German）	選択	吉田芳弘	5年生 環境都市工学科	2	週2時間							
授業概要	学習内容は三区分される。すなわち、ドイツ語圏の文化を教員が学生に紹介するもの、学生が自主的にドイツ語圏のニュース等を収集するもの、そしてドイツ語文法の学習とテキストの講読である。通常の授業では、主に第3に挙げた「文法の学習とテキストの講読」を行う。											
到達目標	読み、書き、聴き、話す言語運用に関する能力のうち、時間的制約上「読む」ことに重点を置く。初級学習者用に簡単なドイツ語で書かれているテキスト（通常60時間のドイツ語学習の後に使用する読本レベル）を、辞書を使って正確な日本語に6割程度は翻訳できる読解力の養成を目標とする。（外国語の習得＝D）またドイツ語圏の文化に接し、ニュースに意識的に触れることで、アメリカの視点と価値観を相対化して世界を多面的に見て理解するとともに、振り返り自国のあり方も意識的に考える素地を作る。（「他の文化への配慮と共生」＝A）											
評価方法	4回の定期試験（70％）および提出物（30％）で評価する。											
教科書等	『おもしろドイツ！ 異文化への招待』（郁文堂）											
内 容					学習・教育目標							
第 1 週	授業の紹介、日本で見られるドイツと Made in Germany（身近なドイツを体験する）				A，D							
第 2 週	ドイツを旅する私（旅行ガイドを使っの旅の計画）				A，D							
第 3 週	ドイツ語の歌を歌える私（音読の集中練習）				D							
第 4 週	教科書第1課（動詞の現在人称変化、語順についてのテキスト）				D							
第 5 週	教科書第2課（動詞の現在人称変化、命令文についてのテキスト）				D							
第 6 週	教科書第3課（名詞と冠詞の格変化、人称代名詞についてのテキスト）				D							
第 7 週	教科書第4課（名詞の複数形、冠詞類、前置詞についてのテキスト）				D							
第 8 週	教科書第5課（動詞の3基本形、過去人称変化、完了形についてのテキスト）				D							
第 9 週	定期試験の返却と解説				D							
第10週	教科書第6課（分離動詞、非分離動詞、再帰動詞についてのテキスト）				D							
第11週	教科書第6課（分離動詞、非分離動詞、再帰動詞についてのテキスト）				D							
第12週	教科書第7課（話法の助動詞、数詞についてのテキスト）				D							
第13週	教科書第7課（話法の助動詞、数詞についてのテキスト）				D							
第14週	教科書第8課（受動態、未来形についてのテキスト）				D							
第15週	教科書第8課（受動態、未来形についてのテキスト）				D							
第16週	定期試験の返却と解説				D							
第17週	教科書第9課（zu 不定詞句、分詞、es の用法についてのテキスト）				D							
第18週	教科書第9課（zu 不定詞句、分詞、es の用法についてのテキスト）				D							
第19週	教科書第10課（形容詞の格変化、比較についてのテキスト）				D							
第20週	教科書第10課（形容詞の格変化、比較についてのテキスト）				D							
第21週	教科書第11課（接続詞、関係代名詞についてのテキスト）				D							
第22週	教科書第11課（接続詞、関係代名詞についてのテキスト）				D							
第23週	補足テキスト				D							
第24週	定期試験の返却と解説				D							
第25週	文法説明（接続法）				D							
第26週	教科書第12課（接続法についてのテキスト）				D							
第27週	教科書第12課（接続法についてのテキスト）				D							
第28週	簡単なテキストを読んでみる（総合練習				D							
第29週	簡単なテキストを読んでみる（総合練習）				D							
第30週	簡単なテキストを読んでみる（総合練習）				D							
（特記事項）		JABEEとの関連										
課題として、新聞、雑誌、インターネット等でこの1年間に目撃することとなるドイツ語圏の国々に関するニュースや記事を切り抜き、各記事にコメントを記して1冊のノートにまとめ、『ドイツ関連記事切抜帳』として提出してもらう。		JABEE	a	b	c	d1	d2a)d)	d2b)c)	e	f	g	h
		本校の学習・教育目標	A	A	C	C	C	B	B	D	C	B

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。(【例】年4回定期試験を実施した場合の各定期試験の評価配分は、特に記載の無いものは、25%ずつになります。)

「第2外国語A」ガイダンス

ドイツ、オーストリア、スイス等のドイツ語圏の文化を紹介する授業（主に第1週，第2週。また教科書各課には、ドイツ語圏文化の紹介記事がある。）では、出来るだけ「現物」に触れることをモットーに、チーズ、菓子、パン等の日本で手に入るドイツ製品を試食し、陶器、自動車等のカタログを調べ、古切手を手にとる等して、少しでもドイツ語圏の人々を身近に感じてもらえるようにする。また旅行案内等を使い自由に旅行計画を立てる（第2週）ことで、想像力に翼を生やして、ドイツへと旅立ってみる。

学生が自主的にドイツ語圏のニュースを収集する課題では、まず新聞から記事を探すという作業を通して、現代の新聞の記事の圧倒的多数がアメリカ関係のニュースであることを実感してもらいたい。（ちなみに第二次世界大戦中の新聞が、多くの紙面を同盟国であったドイツ関連の記事で占めていたことを、当時の新聞のコピーを配ることで知ってもらおう。我々の身の回りの「情報」がいかに選択的・歴史的なものであるのかを知ることは大切なことである。更にこのようなドイツ関連の情報の量は、その他のたくさんの国々のそれと比べれば、それでもまだ多い方なのである。このことの意味についてもそれぞれで考えてもらいたい。）次に、このようにして集めたニュース等の資料にコメントを付ける作業を通して、個々の出来事等について、自分なりに考えてもらう。このような課題をこなすことで、ドイツ語圏の国々に興味を持つとともに、客観的かつ相対的視点で世界に目を向けるように努力するとともに、自国のあり方にもついて意識的でありえるための素地ができればと思う。課題は授業時間外に各自で作業し、年間4回程度提出してもらう。

ドイツ語の文法の学習とテキストの講読（第4週以降）では、授業時間の半分（約45分）を使って、文法の説明を行い、その文法事項の学習のために書かれたテキストを辞書を引ながら予習してもらう。こうすることで不明箇所を直ちに教師が説明し、各学生の能力に応じ、短時間にできるだけ多くのテキストを読むことを実現する。また残りの半分の授業時間（約45分）を使い、テキストの訳出を文法説明を交えて行う。

年間4度の定期試験は、辞書と教科書を利用して初見のテキストを日本語に翻訳してもらう。週1回の授業での訓練の成果が、このテストで試されることとなる。年間30回、合計2700分＝45時間をまじめに訓練することで、相当ドイツ語が読めるようになるし、また読めるように指導するのでがんばろう！